

\* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、木材・木製品製造業、窯業・土石製品製造業、建築用・金属製品製造業、その他製造業が大きく悪化傾向を強めたほか、家具・装備品製造業も悪化傾向を強めました。食料品製造業、出版・印刷・同関連産業は、わずかながら悪化傾向を弱めました。全体的には-63と前期に比べ8ポイント悪化傾向を強めました。売上額、収益はともに11ポイント減少傾向を弱め改善が続きました。価格面では、販売価格が7ポイント下降傾向を弱め、原材料価格は5ポイント上昇傾向を弱めました。原材料在庫は前期の不足から、わずかながら過剰に転じました。資金繰りは2ポイント窮屈感が弱まりました。残業時間は11ポイント減少傾向を弱め、人手は7ポイント上昇し、不足から過剰に転じました。設備の状況は2ポイント不足感を弱め、設備投資を実施した先は機械設備の新・増設を中心に18%と、前期に比べ5ポイント減少しました。

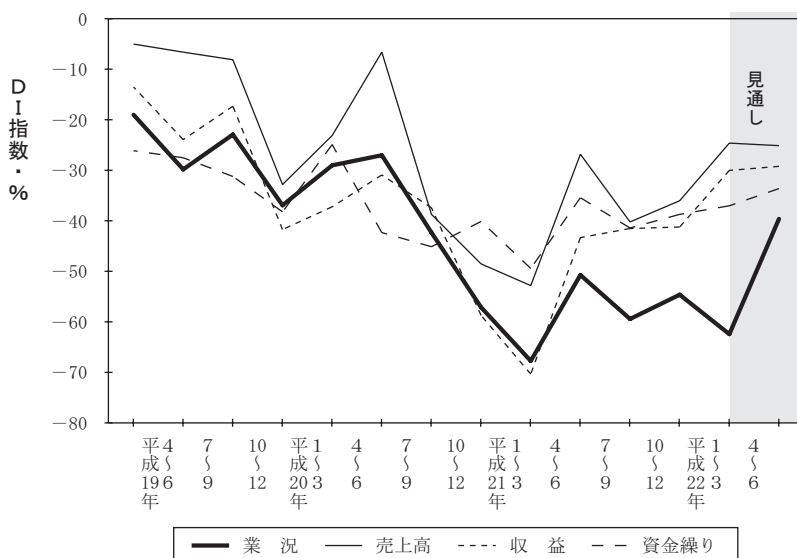
来期の見通し

業況は、建設用・金属製品製造業が大きく悪化傾向を強めるとみえています。窯業・土石製品製造業、その他製造業が大きく悪化傾向を弱めるほか、その他の製造業でも悪化傾向を弱めるとみており、全体的には、来期は、大幅な改善となりそうです。売上額、収益はともに横ばいとみえています。価格面は、販売価格が2ポイント下降傾向を弱め、原材料価格は2ポイント上昇傾向を強めるとみえています。原材料在庫は6ポイント下降し、不足に転じるとみえています。資金繰りは3ポイント窮屈感が弱まりそうです。残業時間は9ポイント減少傾向が強まり、人手はさらに2ポイント過剰感が強まるとみえています。設備の状況は横ばいとみており、今期に比べ5ポイント減少し、機械設備の新・増設を中心に13%の先が実施予定としています。

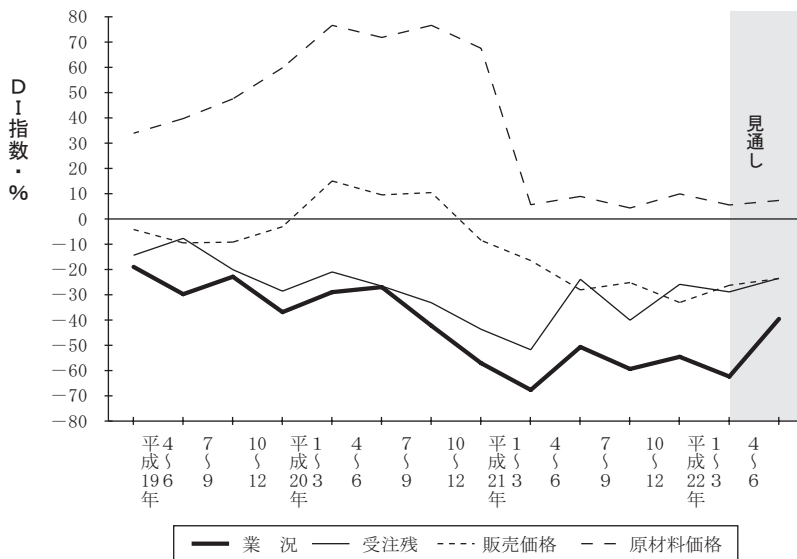
調査員のコメント

- 受注による製造であるが、注文は途切れることなく、生産ペースは一定している。後継者として息子も従事しており、大きな利益はないが順調に推移している。  
(紳士・婦人革靴製造業)
- 販売価格の下降により利幅減少している。今後は新商品開発および新分野進出への情報力強化に注力していく必要がある。  
(精密機械器具製造業)

景況の推移



主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期 22年1月～3月) / 前期 21年10月～12月)

△100 △90 △80 △70 △60 △50 △40 △30 △20 △10 0 10 20 30 40

|             |    |       |
|-------------|----|-------|
| 食料品         | 業況 | ● → ○ |
| その他製造業      | 業況 | ○ ← ● |
| 出版・印刷・同関連産業 | 業況 | ● ○   |

|         |    |               |     |
|---------|----|---------------|-----|
| 経営上の課題点 | 1位 | 売上の停滞・減少(1)   | 69% |
|         | 2位 | 利幅の縮小(2)      | 37% |
|         | 3位 | 同業者間の競争の激化(3) | 32% |

|           |    |             |     |
|-----------|----|-------------|-----|
| 当面の重点経営施策 | 1位 | 販路を広げる(1)   | 63% |
|           | 2位 | 経費を節減する(2)  | 56% |
|           | 3位 | 情報力を強化する(3) | 35% |

\*( )は前回順位